

ときめきの富士

夜明到来

初冬の朝 午前6時48分 精進湖より



今朝は素晴らしい。

夜明けの前から湖に水蒸気が漂っていた。まるで稜線から光が届くのを待ちかねる様に、水蒸気は靄もやとなり、湖霧になり、いのちの焰ほのおとなつて踊つていた。

今朝のもう一つの宝物は水平線だ。

夜明には滅多にない一直線の水平線の上に湖霧が踊つている。

キーンと張りつめた空気、

鏡になつた湖面に映る美しい逆さ富士。

胸に迫る朝の情景になつた。

夜明は近い。陽はまた昇る。

やがて輝く朝陽がやつて来る。

富士山が教えてくれた幸運の法則 その3

道の掃除のおじいさん

ある朝、午前五時半頃に東京の五反田を走っていました。するところなく早い時間に道端にしゃがんで掃除しているお爺さんを見かけたのです。その時は通り過ぎましたがそれから三週間後の早朝にもう一度お爺さんを見かけました。

車を降り

「朝早くからご苦労様です。」

と声をかけました。話をしている内に近くのビルのオーナーと分かりました。昔からこつこつと仕事をされ、ようやく念願のビルを建てた後にバブルがはじけ、周りにはうちより良いビルが建つて、テナントの会社が出て行つてしまつた……。

ある人に相談したら
「原点に戻りなさい」

と諭された。原点とは何だろう……。

「そっだ」「私は何も出来ないけれど掃除なら出来る。道のお掃除から始めよう。」
そうしてこのオーナーは早起きして自分のビル周辺の道の掃除を始めたそ

うです。お掃除を始めて一ヶ月後に私が見かけたのです。

丁度良い機会だから相談しました。

「私はこの辺にサロンを作りたいですがどこか空いてる場所をご存じ有りますか?」

「それじゃ直ぐそばに私の小さいビルが有るので見てみませんか?もう直ぐ一階の駐車場の会社が出ますから」

それは正に天の配剤とでも言うべき場所でした。ビルの一階、間口三間、奥行き八間半、天井の高さは三・六メートル、しかも、駐車場という登録でしたからオフィスよりも格安の料金です。

二階から九階まで富士山の「氣」が入ったと言つてくれる人もいます。でも私はオーナーの「積善陰徳」を神様が喜ばれたらだと信じています。

あれから十二年、何の変哲もないビルは、一度としてテナントが空いた事はありませんでした。サロンの前の街路樹の植木達は他の場所よりも勢い良く葉を付けています。サロンはいつも全国からのお客様で賑わっています。

それが一九九九年の初冬。東京にいる看板デザイナーの兄がシャッターに「ときめきの富士」を描きました。

正月明けにはときめきの富士アートサロンがオープンしました。ビルの一階の大きなシャッターに幻想的な「黄金の海」、都会に出来た異空間『大江戸富士山名所の誕生』です。

八十四才だったオーナーは顔も背格好もずっと前に逝った父によく似た人でした。そして数年前に逝ったオーナーが、にこにこと天井の角から見守っているのをいつも感じています。

「そっだ」「私は何も出来ないけれど掃除なら出来る。道のお掃除から始めよう。」
そうしてこのオーナーは早起きして自分のビル周辺の道の掃除を始めたそ

私は写真スタジオを造るつもりはありません。人々が集うサロンを造り、そこにギャラリー機能とアトリエの要素とショップを造るのが夢でした。遂にそれが完成しました。

二ヶ月後、奇跡が起きました。がらがらだつた九階建てのビルが入居するテナントで埋まつたのです。

二階から九階まで富士山の「氣」が入つたと言つてくれる人もいます。でも私はオーナーの「積善陰徳」を神様が喜ばれたらだと信じています。



ときめきの富士
写真家
ロツキ一田中



キャビネサイズ額入り: 幅23.6×18.7cm
価格5,500円(税込) 送料500円

※お問い合わせの際は「ぶんぶん通信を見た」とお申し添えください。

お申し込み・お問い合わせは
ときめきの富士
アートサロン

● 東京都品川区西五反田3-7-9(11時~18時 水休 除祝日)
● TEL / 03-5740-6921 ● FAX / 03-5740-6922
● ホームページアドレス
● メールアドレス mugen@rocky-fuji.com